

情緒あふれる町並み、芸術や文化に触れる

城下町や宿場町など、当時の面影を残す懐かしい風景。ぶらり歩いて、静かな時の流れを楽しんでみませんか？周辺地域には、魅力的なお店や散策スポットなど見どころがたくさんあります。



中部

くらよししらかべ

倉吉白壁土蔵群・赤瓦

白壁土蔵群は、明治、江戸期に建てられたものが多く、今でも当時の面影を見ることができ、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。白い漆喰壁に黒の焼き板・屋根には赤い石州瓦。かつて酒屋や醤油屋だった建物が、今では物産館や喫茶店などで利用され、伝統とレトロな魅力に出会う散策ができます。

ゆったりとした
時間を
楽しみたい



問／倉吉観光MICE協会 ☎0858-24-5371

E-2



光の鏝絵

光集落の家々や蔵には、地元の左官職人が漆喰壁に鏝で描いた福神や動植物の浮き彫り（鏝絵）が多く施されています。絵画的、装飾的に施された鏝絵のある家が密集している全国的にも珍しい場所です。

問／琴浦町観光協会 ☎0858-55-7811

D-2



東部

若桜蔵通り

かつて鳥取と播州を結ぶ宿場町であり、今も旧家の白壁土蔵の通りが残っています。情緒ある散歩道として親しまれています。

問／若桜町観光協会 ☎0858-82-2237

H-3



若桜鉄道

若桜駅には、蒸気機関車を方向転換させる手動式転車台や給水塔が残り、蒸気機関車の展示走行もあります。

問／若桜鉄道 ☎0858-82-0919

H-3



↑ライダーの聖地「隼駅」



きゅうしょう

久松公園・鳥取城跡

久松山のふもとにあり、鳥取城跡を中心に、仁風閣や県立博物館など見どころの多い公園です。お堀から見ると、白鳥の浮かぶ水堀と何段にも重なる石垣が歴史的な景観を創りだし、印象的な場所となっています。



山麓で見ることのできる遺構です。

←天球丸



18時から22時まで「鳥取城跡ライトアップ」を開催



2028年4月まで工事のため休館

問／鳥取市観光コンベンション協会 ☎0857-26-0756

G-2

智頭宿・石谷家住宅

江戸時代は、鳥取藩主が参勤交代を行う街道「上方往来」が通り、大変賑わった宿場町です。中でもひととき豪華な付まいを見せる石谷家はかつての山林王。敷地面積3000坪、部屋数40余りによって構成されています。智頭杉をはじめ各所の名木をふんだんに使い、技をこらし、贅をついた広大な和風建築です。



問／智頭町観光協会 ☎0858-76-1111



G-4

西部

米子城跡・下町歩き

江戸時代から「山陰の商都」と呼ばれ、水運拠点として栄えました。市内を流れる加茂川の両岸には当時を偲ばせる古い蔵や豪商の家が立ち並び、当時の面影を残しています。九つのお寺が立ち並び寺町通りや加茂川周辺に祀られた26体のお地蔵さまを探しながら散策する「地蔵さん巡り」も人気です。



かつて山陰一の栄華を誇った城跡から下町を一望できます。



問／米子市観光協会 ☎0859-22-6317

B-2

根雨宿

江戸時代から出雲街道と日野往来が交差する交通の要所で、たたら製鉄で栄えた町。大名が泊まった本陣の門や、昭和初期の洋風銀行など、当時を偲ばせる風景が見られます。

問／日野町観光協会 ☎0859-72-2101

C-4



↑地元産の絶品お蕎麦



触れるアートに

うえだ しょうじ

植田正治写真美術館

海外では「Ueda-cho(植田調)」とも称される、被写体をオブジェのように配置した独特の技法で有名な世界的写真家・植田正治氏の写真館。高松伸氏の設計による個性的なコンクリートの外観は、植田の代表作「少女四態」を模しています。
※冬期休館(12月上旬～2月末)

問／植田正治写真美術館 ☎0859-39-8000

C-3



しおたに ていこう

塩谷定好写真記念館

国内の芸術写真の草分けとされる塩谷定好。築100年以上経った生家を改修して開館した記念館は、作品や愛好品だけでなく、かつて生家が営んでいた湯船問屋の時代から受け継がれた貴重な品々も展示。吹き抜ける土間の奥には、蔵を改装した喫茶スペースがあります。

問／塩谷定好写真記念館 ☎0858-55-0120

D-2



鳥取県立美術館

「未来をつくる」美術館をコンセプトに倉吉市に新しくオープンした、アート、文化、人との出会いと想像を促す、鳥取県を代表する文化施設です。建物は世界的な建築家 横文彦率いる横総合計画事務所の手による設計で、国内外の優れたアーティストの作品が展示されます。

問／鳥取県立美術館 ☎0858-24-5442(代表)

E-2

